

第41回日本臨床栄養学会総会
第40回日本臨床栄養協会総会
第17回大連合大会

筆頭発表者 小野萌香

演題発表内容に関連し、開示すべきCOI関係にある企業などはありません。

外来通院の高齢者患者を対象とした 栄養評価と社会的背景との関連の調査

小野萌香¹⁾、石塚美優¹⁾、落合桃果¹⁾、近山理歩子¹⁾
阿部花枝¹⁾、金塚美歩¹⁾、壽山滯那¹⁾、関聡子²⁾
平野雄¹⁾、²⁾

1) 鎌倉女子大学 家政学部 管理栄養学科

2) 神奈川みなみ医療生活協同組合

【目的】

横須賀市内の診療所に外来通院している高齢者の栄養状態と社会的背景との関連を明らかにし、高齢者各個人の持つ社会的背景にどのようにアプローチすれば、栄養状態を改善して、要介護状態を回避できるのかを検討する。

【調査方法】

◆ 外来患者（65歳以上）に研究協力を打診

→ 協力者66名、平均年齢：76.8歳
 男性24名、平均年齢：76.6歳
 女性42名、平均年齢：76.9歳

◆ 協力を得られた患者を対象として以下の調査実施

- ・ 身体計測
- ・ 体組成測定
- ・ 食事摂取状況調査
- ・ 食事リスク評価
- ・ 社会的背景の聞き取り調査

身体計測の項目

- ◇ 身長、体重
- ◇ 上腕周囲長
- ◇ 上腕三頭筋背側部皮下脂肪厚
- ◇ 握力

体組成測定の項目

- ◇ 体脂肪率
- ◇ 筋肉量
- ◇ 筋質点数



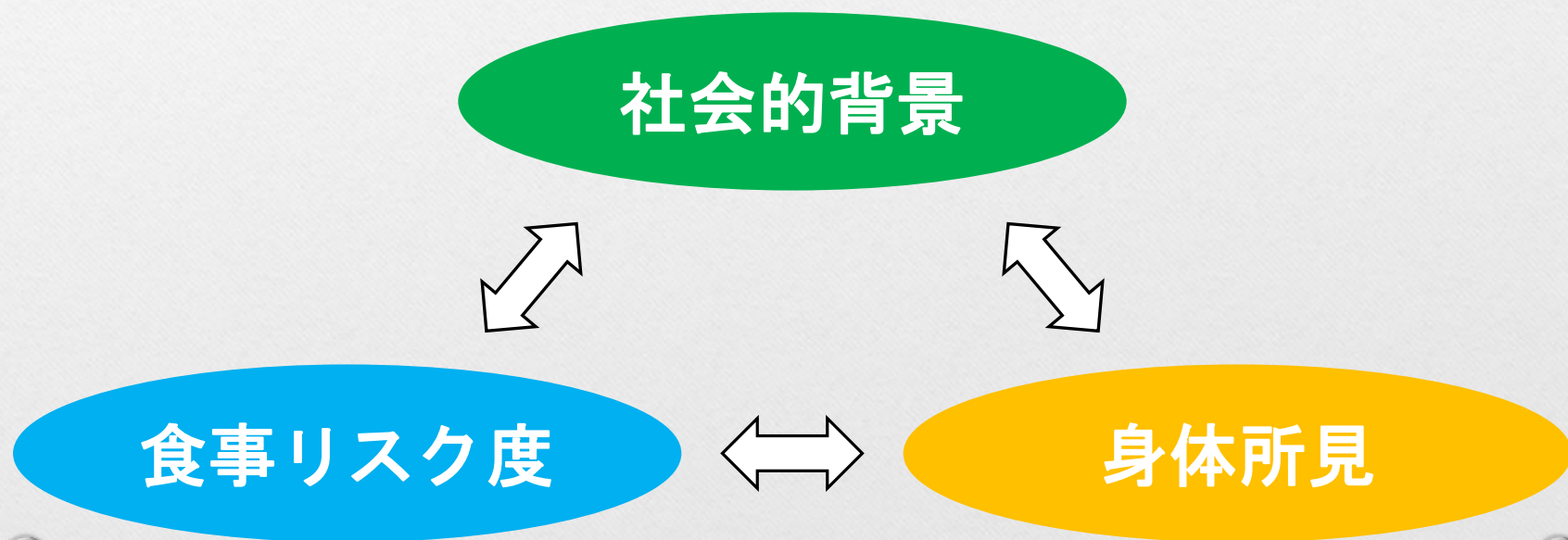
インナースキャンデュアル
(タニタ)

性別と年代別 筋質点数の評価

男性	高い	標準	低い
18才～29才	82点以上	55～81点	54点以下
30代	80点以上	53～79点	52点以下
40代	77点以上	49～76点	48点以下
50代	72点以上	45～71点	44点以下
60代	65点以上	38～64点	37点以下
70代	56点以上	30～55点	29点以下
80代以上	51点以上	26～50点	25点以下
女性	高い	標準	低い
18才～29才	88点以上	60～87点	59点以下
30代	85点以上	59～84点	58点以下
40代	80点以上	56～79点	55点以下
50代	74点以上	50～73点	49点以下
60代	66点以上	43～65点	42点以下
70代	58点以上	33～57点	32点以下
80代以上	53点以上	27～52点	26点以下

【解析】

〈社会的背景・食事リスク度・身体所見〉の関連を解析
→ どのような**社会的背景**が食事リスク度・身体所見に関連しているのかを検討



質問項目

◇ 食事摂取状況：最近1ヵ月間の摂取食品

ごはん、パン、麺類・・・など24項目

◇ 食事リスク評価

① 食事は健康のためにどれくらい大事だと思いますか？

② 食事はひとりで食べることが多いですか？

.....

など16項目

◇ 社会背景調査

① ご自宅では、どなたとお住まいですか？

② ご自宅に介護の必要な方はいますか？

.....

など15項目

今回の解析項目

社会的背景	食事リスク度	身体所見
<ul style="list-style-type: none">同居人数子供の数世帯収入趣味の有無外出頻度	<ul style="list-style-type: none">食事リスク評価の結果をスコア化	<ul style="list-style-type: none">体脂肪率筋質点数握力

スピアマンの順位相関係数の検定手法を用いて、2変量の相関関係を危険率5%で検定した。

【結果】同居人数

男性

社会的背景	食事リスク度	身体所見	相関
同居人数	食事リスク度		有
同居人数		筋質点数	有
同居人数		握力	無
同居人数		体脂肪率	無

女性

社会的背景	食事リスク度	身体所見	相関
同居人数	食事リスク度		無
同居人数		筋質点数	無
同居人数		握力	無
同居人数		体脂肪率	無

【結果】 子供の数

男性

社会的背景	食事リスク度	身体所見	相関
子供の数	食事リスク度		無
子供の数		筋質点数	有
子供の数		握力	有
子供の数		体脂肪率	無

女性

社会的背景	食事リスク度	身体所見	相関
子供の数	食事リスク度		無
子供の数		筋質点数	無
子供の数		握力	無
子供の数		体脂肪率	無

【結果】世帯収入

男性

社会的背景	食事リスク度	身体所見	相関
世帯収入	食事リスク度		無
世帯収入		筋質点数	無
世帯収入		握力	無
世帯収入		体脂肪率	無

女性

社会的背景	食事リスク度	身体所見	相関
世帯収入	食事リスク度		無
世帯収入		筋質点数	無
世帯収入		握力	無
世帯収入		体脂肪率	有

【結果】 趣味の有無

男性

社会的背景	食事リスク度	身体所見	相関
趣味の有無	食事リスク度		無
趣味の有無		筋質点数	無
趣味の有無		握力	無
趣味の有無		体脂肪率	無

女性

社会的背景	食事リスク度	身体所見	相関
趣味の有無	食事リスク度		無
趣味の有無		筋質点数	無
趣味の有無		握力	無
趣味の有無		体脂肪率	無

【結果】 外出頻度

男性

社会的背景	食事リスク度	身体所見	相関
外出頻度	食事リスク度		無
外出頻度		筋質点数	無
外出頻度		握力	無
外出頻度		体脂肪率	無

女性

社会的背景	食事リスク度	身体所見	相関
外出頻度	食事リスク度		無
外出頻度		筋質点数	無
外出頻度		握力	無
外出頻度		体脂肪率	無

【結果】 食事リスク度と身体所見の関連

男性

	身体所見	相関
食事リスク度	筋質点数	無
食事リスク度	握力	無
食事リスク度	体脂肪率	無

女性

	身体所見	相関
食事リスク度	筋質点数	無
食事リスク度	握力	無
食事リスク度	体脂肪率	有

【結果のまとめ】

男性

社会的背景	食事リスク度	身体所見	相関
同居人数	食事リスク度		有
同居人数		筋質点数	有
子供の数		筋質点数	有
子供の数		握力	有

女性

社会的背景	食事リスク度	身体所見	相関
世帯収入		体脂肪率	有
	食事リスク度	体脂肪率	有

【考察と今後の展望】

今回の結果より、健康維持・増進に関連する社会的因子は、男性では「同居人数」、「子供の数」、女性では「世帯収入」であると考えられた。

また、女性では「食事リスク度」と「体脂肪率」にも相関があることが示された。

以上より、高齢男性が健康維持・増進するためには**家族の存在**が重要であり、高齢女性には**経済的状況**が重要であると考えられた。

今後はさらに対象数を増やして解析を進め、高齢者の健康維持・増進に必要な社会的因子を模索し、高齢者医療の適切なあり方を構築するために役立てたい。

【謝辞】

調査にご協力いただきました皆さまに深謝いたします。
尚、本研究は、鎌倉女子大学倫理委員会の承認を受けています。